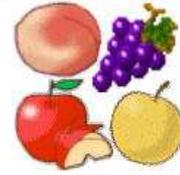


平成24年度 果樹情報 第5号

(平成24年5月17日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (5月上旬：果樹研究所)

5月上旬の平均気温は1半旬が17.2℃で平年より2.2℃高く、2半旬が15.2℃で平年より0.5℃低く、3半旬が13.2℃で平年より2.2℃低い状況でした。この期間の降水量は115.5mmで平年の279%でした。

2 土壌の水分状況 (5月15日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培リンゴ園) は、深さ20cmが2.3、深さ40cmが1.8、深さ60cmが1.9で、適湿条件の範囲です。

3 発育状況 (果樹研究所)

(1) 各樹種の生育

- ① モモ「あかつき」の満開は、4月29日で平年より8日遅く、「ゆうぞら」の満開は4月28日で平年より7日遅い状況でした。
- ② ナシ「幸水」の満開は5月1日で平年より4日遅く、「豊水」の満開は4月29日で平年より5日遅い状況でした。
- ③ リンゴ「つがる」「ふじ」の満開はともに5月4日で、いずれも平年より3日遅い状況でした。
- ④ オウトウ「佐藤錦」の満開は4月29日で平年より4日遅い状況でした。
- ⑤ ブドウ「巨峰」の展葉は、5月2日で平年より7日遅い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	3月31日	3月26日	3月28日	—	—	—
	ゆうぞら	3月30日	3月27日	3月29日	—	—	—
ナシ	幸水	4月10日	4月3日	4月8日	4月18日	4月17日	4月16日
	豊水	4月9日	3月31日	4月7日	4月16日	4月12日	4月13日
リンゴ	つがる	4月1日	3月27日	3月30日	4月14日	4月11日	4月14日
	ふじ	4月3日	3月29日	3月31日	4月13日	4月10日	4月12日
オウトウ	佐藤錦	4月5日	3月31日	3月31日	—	—	—
ブドウ	巨峰	4月28日	4月19日	4月19日	5月2日	4月25日	4月30日

注) 平年は1981～2010年 (オウトウは1994～2010年、ブドウは1988～2010年) の平均値。

表2 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
モモ	あかつき	4月24日	4月15日	4月18日	4月29日	4月21日	4月27日
	ゆうぞら	4月24日	4月16日	4月18日	4月28日	4月21日	4月27日
ナシ	幸水	4月28日	4月23日	4月25日	5月1日	4月27日	5月2日
	豊水	4月25日	4月19日	4月20日	4月29日	4月24日	4月28日
リンゴ	つがる	5月1日	4月26日	5月1日	5月4日	5月1日	5月7日
	ふじ	5月1日	4月27日	5月1日	5月4日	5月1日	5月5日
オウトウ	佐藤錦	4月25日	4月19日	4月25日	4月29日	4月25日	4月30日

注) 平年は1981～2010年 (オウトウは1994～2010年) の平均値。

(2) 発育予測および開花予測 (果樹研究所)

① モモの発育予測 (5月15日現在)

DVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、本年の硬核期開始は6月16日頃で平年より5日遅い見込みです。

また、収穫始めは8月8日頃で平年より6日遅い見込みです。

表3 モモの発育予測

品 種	硬核開始日			収穫始め			収穫盛り		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6/16	6/11	5日遅い	8/8	8/ 2	6日遅い	8/11	8/ 6	5日遅い

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

② ブドウの開花予測 (5月15日現在)

DVRモデルによる「巨峰」の開花予測日は、今後の気温が平年並に推移した場合、6月12日頃で平年より6日遅い見込みです。

また、「巨峰」の満開予測日は、今後の気温が平年並に推移した場合、6月14日頃で平年より4日遅い見込みです。

表4 ブドウの開花予測日

品 種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨 峰	6月8日	6月6日	6月12日	6月9日	6月17日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

表5 ブドウの満開予測日

品 種	満 開		今後の気温経過と満開予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨 峰	6月14日	6月10日	6月14日	6月11日	6月20日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

果樹類の多くは幼果期を迎えているが、引き続き気象予報に注意し、降霜のおそれがある場合は防霜対策を実施してください。ブドウやカキは展葉期に凍霜害を受けると花器だけでなく新梢も障害を受けるので十分注意しましょう。

果樹の凍霜害対策のための温度指標

果樹の凍霜害対策のための生育ステージ別温度指標を、農業総合センター果樹研究所ホームページに掲載していますので、参照してください。アドレスは以下のとおりです。

<http://www.pref.fukushima.jp/kajyu-shiken/homepage.htm> で、メニューの「技術資料」をクリックしてください。

果樹の現在の生育ステージ

農業総合センター (本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校) の果樹類の生育ステージを、農業振興課・農林地再生対策室ホームページに掲載していますので、参照してください。アドレスは以下のとおりです。

http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11224 で、トピックスから「果樹の現在の生育ステージ」をクリックしてください。

(2) モ モ

この時期は新梢や果実の生育が旺盛な時期であるので、着果管理や土壌の水管理等を徹底し、新梢および果実の初期生育を促進してください。

ア 予備摘果

現在、予備摘果の作業時期ですが、摘らいや摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱かった場合は必ず予備摘果を実施しましょう。なお、品種や園によって結実不良により着果量が少ない場合には、仕上げ摘果から作業を行ってください。

イ 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、仕上げ摘果は硬核期開始頃まで（果樹研究所は6月16日頃）を目安に終了してください。

摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生状況を見ながら加減してください。

ウ 樹勢回復対策

早めに摘果で着果数を制限し、新梢生育を促しましょう。また、樹冠の上部に空枝を積極的に配置し、葉面積を確保して樹勢回復を図りましょう。

新梢伸長が劣り、葉色が淡いなど樹勢低下がみられる園では、早期摘果により着果量を制限するとともに、5月中を目安に追肥（窒素成分で2kg/10a程度まで。ただし、放射性セシウム対策のためアンモニア態窒素を主成分とする肥料の使用は避ける。）または、窒素成分を含む葉面散布用肥料を葉面散布するなどして樹勢の回復を図りましょう。

エ 新梢管理

5月下旬から6月中旬は新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混み合いやすくなります。特に、若木では徒長枝の発生により樹形が乱れやすく、また、徒長枝を放置することで冬季せん定量が多くなると、樹の拡大が遅れるばかりでなく、切り口からの枯れ込み等が発生しやすくなります。このため、樹冠内部や主枝、亜主枝の基部、側枝の基部などの徒長しやすい新梢は、早めに摘心や夏季せん定を実施しましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか最小限としてください。

(3) リンゴ

落花7～10日後になるとガク立ちし実止まりが確認できるので、実止まり確認後予備摘果を開始し、満開後30日以内に終了するように努めましょう。

着果数の多い園地から順に予備摘果を開始します。樹勢が低下している樹は、早急に予備摘果を実施し、樹勢に応じた適正な着果量として樹勢の維持に努めましょう。

開花期の天候不良等の影響で結実不良が心配される場合は、実止まりをよく確認のうえ摘果作業を行い、できるだけ果形が良く、今後の肥大に期待が持てる充実した果そうの果実で目標着果数を確保するよう心がけましょう。

結実が良好な樹は、予備摘果の段階で長果枝や葉の少ない果そう及び肥大不良果そうの果実は積極的に全摘果を実施し、着果負荷の軽減を図りましょう。また、えき芽果の着生が多い園地では、早めに摘除してください。

(4) ナ シ

予備摘果は満開後30日までに実施しましょう。結実状況をよく確認しながら作業を進めてください。また、「幸水」の仕上げ摘果は、満開後50日頃までに、短果枝上の肥大不良果の除去を中心に丁寧に実施してください。

予備摘果と同時に芽かきも実施しましょう。主枝や亜主枝の背面枝は、全てかき取ってください。せん定の切り口等から不定芽新梢が多数発生し混み合っている部位は、芽かきで2～3本に整理します。予備枝は風による新梢折損のおそれが無くなったなら先端の新梢一本に整理しましょう。

この時期に土壌が乾燥した場合は、樹勢低下やカルシウムの吸収不良による生理障害の発生が懸念されるため、かん水を実施しましょう。

平年より新梢伸長が不良で葉色が薄い場合には、早期摘果で着果量を制限するとともに、5月中を目安に追肥（窒素成分で2kg/10a程度まで。ただし、放射性セシウム対策のためアンモニア態窒素を主成分とする肥料の使用は避ける。）または、チッ素成分を含む葉面散布用肥料を葉面散布するなどして樹勢の回復を図りましょう。

(5) ブドウ

混み合っている新梢、勢いが極端に強く花振るいの危険性が高い新梢及び花穂を持たない弱い新梢は芽かきを実施しましょう。また、新梢誘引は新梢が30～40cm程度伸びた頃から実施してください。ただし、「あづましずく」は、新梢が硬く基部から折れやすいので、無理に誘引せず時期を遅らせて実施してください。

新梢誘引、花穂の整理、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。

土壌の乾燥が続くと、新梢の初期生育が劣り、新梢伸長と花穂発育のバランスが崩れて花振るいや単為結果等の発生が心配されるので、必要に応じてかん水を実施しましょう。

(6) オウトウ

果樹研究所の結実状況は、概ね良好であるが果実の大きさにバラツキが目立ちます。1花束短果枝当たり3～4果（樹勢が適正な場合）残すことを目安に、早めに摘果を実施しましょう。なお、樹勢が強く新梢の生長が旺盛な側枝ではやや多めに、樹勢が弱い場合は少なめにし、葉数に応じた着果量としましょう。

生育状況に合わせて、摘果、雨よけ被覆、着色管理などの管理作業は計画的に行ってください。

(7) 共通

雨除け栽培の被覆資材など使用する資材への放射性物質の付着と果実への影響が心配される場合は、保管状況等により使用の可否を判断してください。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴうどんこ病

乾燥条件が続くと発生が多くなるおそれがあります。発生の多い園では、り病部位をせん除して処分するとともに、落花2週間後にうどんこ病防除剤を散布しましょう。

イ モモせん孔細菌病

5月上旬におけるモモせん孔細菌病春型枝病斑の発生は、発生ほ場率が平年より高く、発生程度が高いほ場もみられました（県病虫害防除所、平成24年5月15日付防除情報）。

今後、風雨により被害が拡大するおそれが高いため、春型枝病斑や葉・果実での発生に十分な注意が必要です。発病部位は伝染源となるため、見つけしだいせん除し適切に処分するとともに、5月中～下旬のせん孔細菌病防除剤の散布を徹底しましょう。

ウ モモ灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、他の核果類やモモの成熟期における果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分してください。

エ ナシ黒星病

果樹研究所の「幸水」の無防除樹における果そう基部病斑発生率は1.3%で昨年（2.1%）より少ない状況でした。しかし、5月上旬の果そう基部の発生ほ場割合は、中通り、浜通りとともに平年より高かったこと（県病虫害防除所、平成24年5月15日付防除情報）、また「幸水」の開花期間中に強い降雨がみられたことから、今後の発生に十分な注意が必要です。

果そう基部病斑、り病葉およびり病果は見つけしだい摘除するとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア 主要鱗翅目害虫

現在の果樹生育は平年に比べ遅れて推移していますが、主要な鱗翅目害虫の発生時期は平

年並に推移していると推測されます。

イ モモハモグリガ

現在、越冬世代成虫の発生は終息したと考えられます。モモハモグリガ第2世代幼虫の防除適期は6月1～2半旬頃になると推定されるので、この時期にあわせて防除を行いましょ

ウ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の発生盛期は5月5半旬頃と推定され、リンゴコカクモンハマキの発生もこれに準ずると考えられます。

リンゴモンハマキ第1世代幼虫の防除適期は6月1半旬～3半旬頃になると推定されるので、この時期にあわせて防除を行いましょ。なお、複合交信攪乱剤を設置してないほ場では早急に設置してください。

エ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ越冬雌成虫の防除適期は5月5～6半旬頃になると見込まれるので、ふ化幼虫の分散に合わせて防除を徹底しましょ。

また、クワシロカイガラムシの防除適期はウメシロカイガラムシより1半旬程度遅いため、防除時期には注意してください。

オ カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山間、山沿いの果樹園で飛来が多く見られる場合は速やかに防除を行いましょ。

表6 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成23年5月16日現在）

今後の 気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	越冬世代 発生盛期	第1世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月19日	5月30日	6月2日	6月7日	6月17日	6月25日
平年並み	5月22日	6月5日	6月4日	6月10日	6月24日	7月4日
2℃低い	5月29日	6月14日	6月9日	6月16日	7月7日	7月17日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 リンゴモンハマキ：3月1日、モモハモグリガ：4月27日

ナシヒメシンクイ：5月5日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。